

菊池五山：北福寺

菊池市中心部の北、かつての城下町であった隈府の対岸に、迫間川を挟んで北福寺がある。同じ敷地にある最初の寺は 9 世紀に創建されたと考えられているが、「北福寺」と呼ばれるようになったのは、菊池氏第 15 代当主の菊池武光（1319-1373）の時代からである。

武光は菊池氏最大の繁栄期をもたらした改革者として記憶されている。彼の重要なイニシアチブのひとつは、菊池五山を指定したことである。五つの禅寺は、さまざまな管理、監督、宗教的任務を果たす代わりに一族の保護を享受した。この制度では 4 つの寺がそれぞれ四方位の一つを守り、中央の寺が五山を完成させた。北福寺はその名の通り、北の守り神とされた。

五山制度は南宋時代（1127-1279）の中国で生まれ、鎌倉幕府（1185-1333）によって日本にもたらされた。日本では、鎌倉幕府が最も好んだ仏教の宗派である禅を広めることと、禅寺を官僚機構に組み込むことで、天下と民に対する幕府の統制を強化することが目的だった。宗教的な美徳と行政的な利益という 2 つの目的が、菊池武光がこの制度を採用した動機でもあったかもしれない。

現在の北福寺は一堂からなり、その隣には 1335 年に菊池一族の落武者を祀るために建てられた石塔がある。これは五輪塔で、宇宙を構成する五大元素を象徴する五つの部分からなる塔のことである。四角は地、球体は水、ピラミッドは火、半球は風、宝珠は空というように、それぞれの元素に対応する形をしている。